



今月のテーマ  
新聞記事から

TEL: 0243-22-6666

今年ももう6月、梅雨の季節です。そして梅雨が明ければ夏。月日のたつのは本当にあつといつ間ですね。ところで、健康に関する情報が、最近テレビでも新聞でも増えたように思います。一部の番組には時々反論したくな

ような解説もみられますが、医師としての立場から見ても納得できる内容のものほとんどです。そこで、今回は、新聞からいくつかのトピックスを拾ってみました。

乳児向けイオン果汁メーカー「虫歯に注意を明記」読売5月24日(ほ乳瓶虫歯が問題になっているようです。イオン飲料や果汁などの酸性度の強い飲料を寝る前にほ乳瓶で長時間飲ませていると、歯からカルシウムが抜け、表面の硬いエナメル質も溶かしてしまふことがあるため。発熱や下痢などの時には非常に便利な製品ですが、体に良いとの誤解や、大人の食習慣の影響が子供にまで及んでしまった結果なのでしょうか。白湯代わりにイオン飲料を与えていることなどが、今問題となつてい

る。ペットボトル症候群の種を時々様なことになつてきているのかもしれません。

カプめん容器で子種減っちゃう？(アスポチ 4月26日)この問題は、カプラーメムやスーパーでの包装用のトレーなどに使われているポリスチレン性の容器に、生殖能力を低下させるなどの内分

泌かく乱化学物質(環境ホルモン)が含まれており、溶け出すおそれがあるという分析結果が出されたことによるものです。環境ホル

モンについては、すでに学校給食用に使われているポリカーボネート製品の中に、食品衛生法の基準を上回る環境ホルモンが見つか

り、ポリカーボネート製のは乳瓶から環境ホルモンの一種であるビスフェノールAが検出されたこと報告されています。ほ乳瓶のメーカーはこれに

対して許容基準の1000分の1の量で安全基準はクリアしていると発表しています。厚生省でも、内分泌かく乱化学物質の健康影響に関する検討会を開催するなど

対策に乗り出しました。しかし、この問題の決着にはもう少し時間がかかりそうです。

医療の主人公はあなた読売 4月4日(厚生省が、患者さんが我々ドクターにどんなことを聞いたら良いかを示した、医者にか

かる10カ条(表1参照)を発表しました。実は、この10カ条は「心構え編」で、他に「実践編」というものが存在します。こちらは具体的な質問内容を例示したもので、例えば、どの様な治療ですか? 治療のスケジュールは? どのような変化が期待できますか? どのような危険がありますか?

その治療を受けないとどうなりますか? など。従来の医療のシステムを大きく変える内容だと思

います。病気の中心には現在の医療では治せないものもあり、癌の告知の問題も含め、意見が分かれるところもあるかと思

います。基本的な

私はこのシステムを支持したいと考えております。また、アメリカなどでは従来からこのようなシステムでの医療が展開されてい

予防接種専用の時間  
毎週水曜日を除く午後1:30~2:00  
今月は特別な予定は入っていません。

伝えたいことはメモして準備  
対話の始まりはあいさつから  
よりよい関係づくりはあなたにも責任が  
自覚症状と病歴はあなたの伝える大切な情報  
これからの見通しも聞きましよう  
その後の変化を伝える努力を  
大事なことはメモをとって確認  
納得できないときは何度でも質問を  
医療にも不確実なことや限界がある  
治療方法を決めるのはあなたです

バコン普及率35%(読売5月26日)  
パソコンといえばインターネット。当院の待

合室にもインターネットが体験できるパソコンを一台試験的に設置しました。なかなか

の普及率は、医療情報に限らず、ありとあらゆる事に関する情報が豊富にあり

デリオ6月号 臨時増刊で当院のHPが1  
遊び・暮らし・仕事に役立つ最新定番ホームページBEST1000  
もっと手軽にインターネット ホームページガイドVol.1.1というタイトルがついていますの  
で、インターネットHPの特集号です。当院のHPの記事ですが、P33に「とりあえずブック  
マーク! SOSリンク集」のコーナーに、「ネット上の夜間急病センター」というサブタイ  
ル付きで紹介されております。  
土川内科小児科 http://www.nms.co.jp/  
とつぜん体調を崩したり、子供が休日に熱を出したり、急な病気にはほとほと困ってしま  
う。福島県二本松市の「土川内科小児科」のサイトでは、そんなときのアドバイスが豊富に  
提供されている。「医学常識のウソ?ホント?」コーナーでは、「汗をかくと熱が下がる?」  
「注射の方がよく効く?」といった「常識」がやさしく解説されている。「風邪のときにお風呂  
はダメ」といわれるが、かぜ気味でも熱がなく元気であれば、短時間の入浴は新陳代謝を  
高め、さっぱりしてぐっすり眠れるなどの効果があるそうだ。また、「小児科の部屋」のコー  
ナーでは、病気に対するQ&Aのほか、ホームケアや予防接種などの役立つ情報が、いっ  
ぱいだ。「受診時に持参するもの」として、保険証や母子手帳のほか、体温のメモや便の  
サンプル、哺乳びんやお気に入りのおもちゃなどが挙げられているのは、細かい配慮が  
感じられる(ただし、これらはあくまでも参考意見に過ぎず、個人差が強調されているのは  
いうまでもない)。

この情報紙のコピー及びバックナンバーをご希望の方は受付までどうぞ。